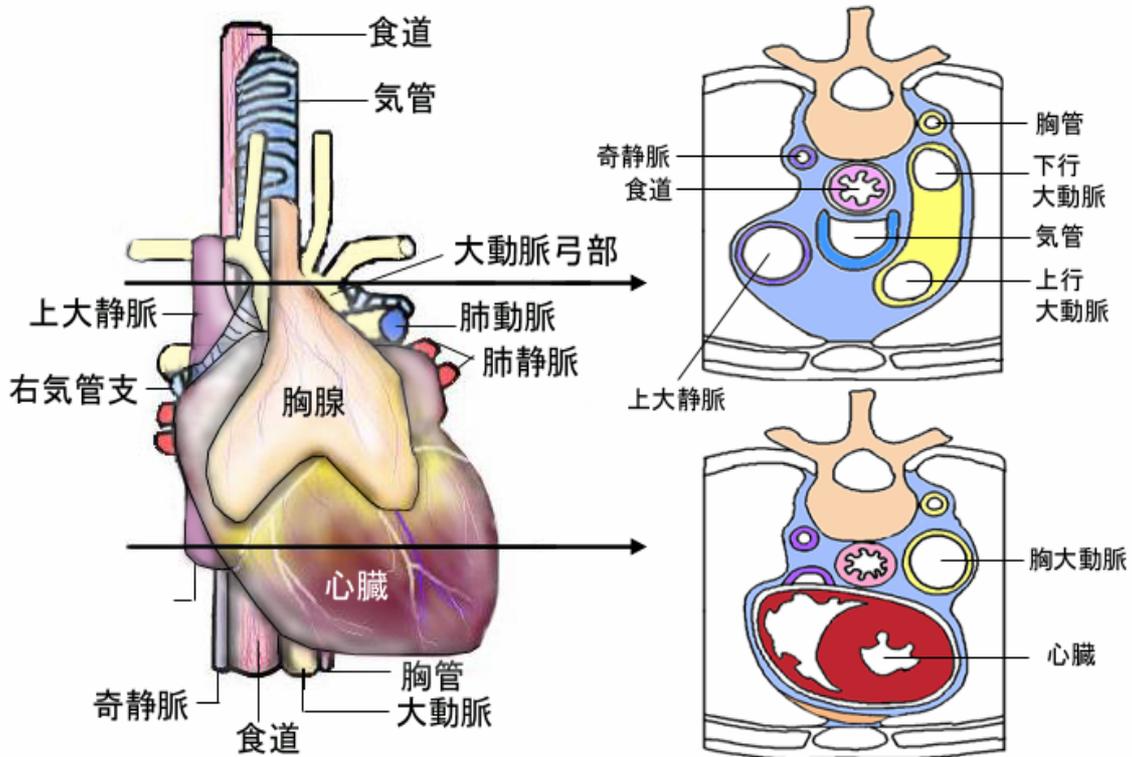


縦隔とは



縦隔は胸郭の左右肺に囲まれた胸部脊柱上の器官の集まりを言います。ここには心臓や心臓に出入りする動静脈血管や気管、食道、大動脈など重要な器官が集まっています。左の図は心嚢を取り去り、縦隔器官と呼ばれる種々の器官を分かりやすく透明化して描いています。実際は心臓を除く縦隔器官は結合組織に包まれて、まとまって固定されます。心底部（心臓の動静脈が出入りする場所）での横断面が右上の図です。脊柱上に接するように食道や大動脈が見られますが、右下図の心臓横断面では胸骨に接するように心臓横断面が見られます。このように横断する位置によって器官の違いが見られます。右図で薄い青の部分はこれら器官を取り囲む結合組織です。この結合組織は食道や大動脈の外膜の続きです。ですから、縦隔器官の食道や大動脈は外膜があっても個別の漿膜を持ちません。左右の胸腔、肺、胸腔側の壁側性心外膜は漿膜に包まれますが、縦隔器官は心臓表面の漿膜以外は漿膜を持ちません。

縦隔で重要なこと

- 1・左右の肺は縦隔器官に属しない。
- 2・縦隔器官は個別の漿膜を持たない。

前は胸骨、後は胸椎、側方は縦隔側の壁側性心外膜、下は横隔膜、上は胸口（頸部に続く位置）までを含みます。縦隔は心底部頂部の水平断により上下に分け、さらに下を心膜腔として前中後分かれ、計4つに区分されます。上縦隔には気管、食道、胸管、大動脈弓とそこから分枝する血管、腕頭静脈、上大静脈、迷走神経、横隔神経、反回神経、胸腺などが含まれます。前縦隔は狭く心嚢外膜とつながる靭帯からなります。中縦隔は心臓、心底部血管起始部、気管分岐部、横隔神経、心臓神経などが。後縦隔は下行大動脈、奇静脈、半奇静脈、迷走神経、食道、胸管などが含まれます。